

# スペイン語の動詞活用

上田博人

## 1. 規則変化

スペイン語文法の中で動詞の活用が一番難しいと思われます。1つの動詞に80以上の数の変化形があり、それが3種類あって(ar, er, ir 動詞)、さらに不規則変化もある、などと言われれば誰でも後込みするでしょう。一にも二にも練習、練習...、動詞の活用形を何度も口に出して、自然にパターンが身に付くまで練習の繰り返しです。

しかし、その前にちょっと全体を見渡して、活用パターンにある規則性を意識するとずいぶん効果が違うと思います。これから3回の予定でスペイン語動詞活用の全体を見てみましょう。第一回は規則変化です。

### 1.1. はじめに

複雑な動詞の活用形を整理するために次の提案をしたいと思います。

- (1) ER 動詞と IR 動詞の活用語尾はほとんど同じなので1つにまとめる。
- (2) 従来の「活用語尾」を「延長部」と「人称語尾」に分ける。

ER 動詞と IR 動詞の活用形の違いは、直説法・現在の「私たち」(emos, imos)と「君たち」(éis, ís)、そして「君たち」(ed, id)の命令形だけです。そこにだけ注意すればよいのです。

そして、たとえば cantamos「私たちは歌う」という形は、次のように「歌う」という意味の語根(cant)と直説法・現在形であることを示す延長部(a)、そして「私たち」という人称を示す人称語尾(mos)に分けます。

<b>cant</b>	<b>a</b>	<b>mos</b>
語根部	延長部	人称語尾
「歌う」	直説法・現在	私たち

ここで動詞の「活用しない部分」(基本部 + 延長部 = 語幹)を不定詞の語尾 R を除いた部分とします。

canta-r 「歌う」 ...AR 動詞  
come-r 「食べる」...ER 動詞

すると、不定詞の語尾は ar, er (そして ir) という複数の形ではなく、r だけになります。

## 1.2. 直説法・現在形の活用

この方式に従うと AR 動詞と ER 動詞の活用語尾が同じになります。

canta-r: cant-o, canta-s, canta, canta-mos, cantá-is, canta-n  
come-r: com-o, come-s, come, come-mos, comé-is, come-n

人称変化の活用語尾が次のようになります。「彼」の人称語尾はないので「ナシ」とします。

o, s, ナシ, mos, is, n ...直説法現在の人称語尾

ただし次の注意が必要です。「私」の活用形は延長部の母音がなくなります。\*canta-o > canto「私が歌う」、\*come-o > como「私が食べる」。

## 1.3. 線過去

新しい活用パターンは線過去でも威力を発揮します。AR 動詞には aba という線過去を示す延長部が続きます。ER 動詞と IR 動詞では ía です。

cantar: cantaba, cantaba-s, cantaba, cantába-mos, cantaba-is, cantaba-n  
comer: comía, comía-s, comía, comía-mos, comía-is, comía-n

このように3つの活用形の人称語尾は同じです。人称語尾は、

ナシ, s, ナシ, mos, is, n ...線過去の人称語尾

これは先に見た現在形とよく似ています。「私」の部分だけが違います。実は、この人称語尾こそがあらゆる活用語尾の基礎なのです。

## 1.4. 過去分詞と現在分詞

新方式によれば過去分詞や現在分詞も1つに合流させることができます。

AR 動詞の過去分詞の延長部は a, ER 動詞と IR 動詞の延長部は i です。どちらも過去分詞の語尾は do になります。

過去分詞: canta-do, comi-do

AR 動詞の現在分詞の延長部は a, ER 動詞と IR 動詞の延長部は ie です。どちらも現在分詞の語尾は ndo になります。

現在分詞: canta-ndo, comie-ndo

### 1.5. 命令形

「君」の命令形の人称語尾は「ナシ」です。また「君たち」の命令形の人称語尾は d です。

命令形「君」: canta, come, vive

命令形「君たち」: canta-d, come-d, vivi-d

### 1.6. 接続法・現在形

AR 動詞の延長部は e, ER 動詞と IR 動詞では a です。人称変化は線過去と同じです。

cantar: cante, cante-s, cante, cante-mos, canté-is, cante-n

comer: coma, coma-s, coma, coma-mos, comá-is, coma-n

### 1.7. 接続法・過去形

AR 動詞の延長部は ara, ER 動詞と IR 動詞の延長部は iera です。人称変化はやはり線過去と同じです。

cantar: cantara, cantara-s, cantara, cantára-mos, cantara-is, cantara-n

comer: comiera, comiera-s, comiera, comié-ra-mos, comiera-is, comiera-n

### 1.8. アクセント

アクセントは原則として延長部に置かれます。ただし、現在形(直説法と接続法)では「私」、「君」、「彼」、「彼ら」の活用形で語根にアクセントが移動します。(それから、来月号で扱う点過去の強変化でも語根にアクセントが移動します。)

このように延長部を意識すればアクセントの位置を間違えません。

### 1.9. まとめ

規則性を考えずに無闇に丸暗記してもいつか頭がパンク状態になり、「やっぱり動詞の活用は難しい」と嘆くことになります。むしろはじめは少くぐらい間違えてもよいから、基本形だけに注目し徐々に逸脱した形を身につけるといいう方法も考えられると思いま

す。

最後に、今回扱った延長部と人称語尾についてまとめてみましょう。

### 延長部

	AR 動詞	ER・IR 動詞
直説法現在	a	e (i)
直説法線過去	aba	ía
過去分詞(do)	a	i
現在分詞(ndo)	a	ie
命令形	a	e (i)
接続法現在	e	a
接続法過去	ara	iera

### 人称語尾

「私」...o またはナシ	「私たち」...mos
「君」...s	「君たち」...is
「彼」...ナシ	「彼ら」...n

## 2. 完了形・未来形・進行形と点過去

1では動詞の基本的な活用形の仕組みを見ました。ここでは組み合わせることができる完了形・未来形・進行形と点過去を扱います。

はじめに haber の活用形を確認しておきましょう。

haber の現在形: he, has, ha, hemos, habéis, han

### 2.1. 現在完了と過去完了

現在完了形は「haber の活用 + 過去分詞」で出来上がります。過去完了は「haber の線過去形 + 過去分詞」です。

現在完了: he cantado, has cantado, ha cantado, hemos cantado, habéis cantado, han cantado

過去完了: había cantado, había-s cantado, había cantado, había -mos cantado, había-is cantado, había-n cantado.

## 2.2. 未来と未来完了

未来形は不定詞形に、haber の活用とよく似た次の語尾が使われます。

é, ás, á, emos, éis, án ...未来形の語尾

cantar: cantar-é, cantar-ás, cantar-á, cantar-emos, cantar-éis, cantar-án

comer: comer-é, comer-ás, comer-á, comer-emos, comer-éis, comer-án

未来完了は「haber の未来形 + 過去分詞」という構成ですが、haber の未来形は habré のように延長部の母音がありません。

cantar: habr-é cantado, habr-ás cantado, habr-á cantado, habr-émos cantado, habr-éis cantado, habr-án cantado.

## 2.3. 過去未来と過去未来完了

過去未来形の延長部は ría です。人称語尾は線過去と同じです。

cantar: cantaría, cantaría-s, cantaría, cantaría-mos, cantaría-is, cantaría-n

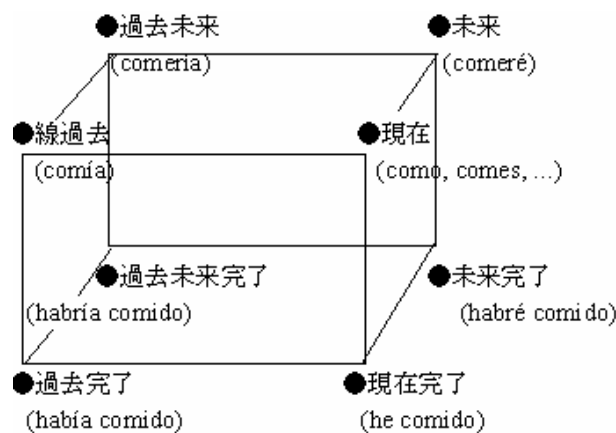
comer: comería, comería-s, comería, comerí-mos, comería-is, comería-n

過去未来完了は「haber の過去未来形 + 過去分詞」となります。haber の過去未来形の延長部は不規則です。人称語尾は線過去と同じです。

cantar: habría cantado, habría-s cantado, habría cantado, habría-mos cantado, habría-is cantado, habría-n cantado.

## 2.4. システム

ここで次のような立方体のシステムを考えてみましょう。



この図は、4つの過去形(線過去, 過去完了, 過去未来, 過去未来完了)には過去の特徴 *ía* があり, 未来形(未来, 過去未来, 未来完了, 過去未来完了)には未来の特徴の *r* があり, そして4つの完了形(現在完了, 過去完了, 未来完了, 過去未来完了)には *haber* + 過去分詞が共通していることを示しています。もしそれぞれの語形を忘れたら, 時制の名前からそれぞれの要素を引き出して組み立ててみるとよいでしょう。たとえば,

come-r の過去未来 = come + 未来 r + 過去 *ía* > comería

canta-r の過去未来完了 = 完了 hab + 未来 r + 過去 *ía* + canta + 過去分詞 do > habría cantado

## 2.5. 進行形

進行形は *estar* の活用形と現在分詞で作ります。

現在進行形: *estar* の現在形(*estoy, estás, ...*) + 現在分詞

過去進行形: *estar* の過去形(*estaba, estabas, ...*) + 現在分詞

未来進行形: *estar* の未来形(*estaré, estarás, ...*) + 現在分詞

進行形と完了形は次のような関係があります。

	進行形	完了形
現在	Estoy comiendo 「私は食べている」	He comido 「私は食べ終わった」
過去	Estaba comiendo 「私は食べていた」	Había comido 「私は食べ終わっていた」
未来	Estaré comiendo 「私は食べているだろう」	Habré comido 「私は食べ終わっているだろう」

## 2.6. 点過去

AR 動詞の延長部は *a*, ER・IR 動詞の延長部は *i* です。

canta-r: cant-é canta-ste, cant-ó, canta-mos, canta-steis, canta-ron

come-r: com-í, comi-ste, comi-ó, comi-mos, comi-steis, comie-ron

人称語尾はこれまでにないタイプです。

é または í, -ste, -ó, -mos, -steis, -ron: 点過去の人称語尾

ただし, 一部次のようなプロセスに注意しましょう。

(1) 「私が」の活用形で次のような変化がある。

\*canta + é > canté「私が歌った」

\*come + i > comí「私が食べた」

(2) ER 動詞と IR 動詞の「彼らが」の部分には\*i>ie という変化がある

\*come-ron > comieron「彼らが食べた」

(3) 次の変化にも注意。

\*canta + ó > cantó「彼が歌った」

## 2.7. まとめ

完了形： haber の活用形 + 過去分詞

進行形： estar の活用形 + 現在分詞

未来形： 不定詞 + haber に似た活用語尾

点過去の延長部： a (AR 動詞)または i(ER 動詞と IR 動詞)

点過去の人称語尾： é または í, -ste, -ó, -mos, -steis, -ron

## 3. 不規則変化

今回で私たちの動詞活用の見直し作業を終わります。難関だと言われる不規則動詞を扱います。

### 3.1. 語根母音変化 (1) AR 動詞と ER 動詞

不規則動詞の中でもさらに難しい語根の母音に変化する動詞について説明します。なぜ次のような変化をするのでしょうか？

pensar「考える」:(直説法現在)pienso, piensas, piensa, pensamos, pensáis, piensan;

(接続法現在)piense, pienses, piense, pensemos, penséis, piensen

contar「数える」:(直説法現在)cuento, cuentas, cuenta, contamos, contáis, cuentan;

(接続法現在)cuenta, cuentes, cuente, contemos, contéis, cuenten

ここにもスペイン語独特の音の規則が働いています。スペイン語の歴史の中で一部の e と o はアクセントの影響を受け、それぞれ ie と ue に変化したのです。この変化はアクセントが条件なので、pensamos, contamos, pensáis, contáis などのように活用語尾にア

アクセントがある形では, e や o の形が保たれます .

語根母音変化をする動詞の中で AR 動詞と ER 動詞はこのグループになります . たとえば , empezar 「始める」, poder 「できる」, mover 「動かす」など .

### 3.2. 語根母音変化 (2) IR 動詞

語根母音変化動詞の中の IR 動詞は3種類に分かれます .

(1) pedir 「注文する」 : (直説法現在) pido, pides, pide, pedimos, pedís, piden; (接続法現在) pida, pidas, pida, pidamos, pidáis, pidan

このタイプの動詞は語根に i が現れます . 延長部に母音の i があるときの語根の母音は e となり (pedi-mos, pedí-s), その他は i となります (pid-o, pide-s, ...). (pidie-ron や pidie-ndo の形は延長部の母音が i という母音ではなく ie という二重母音なので, 語根の母音は i が現れます .)

(2) sentir 「感じる」 : (直説法現在) siento, sientes, siento, sentimos, sentís, sienten; (接続法現在) sienta, sientas, sienta, sintamos, sintáis, sientan

(3) dormir 「眠る」 : (直説法現在) duermo, duermes, duerme, dormimos, dormís, duermen; (接続法現在) duerma, duermas, duerma, durmamos, durmáis, duerman

これらのタイプの動詞は先に示した pensar や contar のようなアクセントによる二重母音化の現象と, pedir のように i (sintamos, sintáis) が現れたり, また u (durmamos, durmáis) が現れたりします .

以上をまとめる次のようになります .

	二重母音化	延長部による変化	不定詞
pensar		×	AR 動詞と ER 動詞
contar		×	AR 動詞と ER 動詞
pedir	×		IR 動詞
sentir			IR 動詞
dormir			IR 動詞

### 3.3. 点過去の強変化動詞

poner 「置く」の点過去は次のように変化します . pus-e, puso-ste, puso-o, pusimos, pusisteis, pusieron . この活用は, 語根にアクセント (強勢) があるので「強変化」と呼ばれます . 語尾は,

e, -ste, -o, -mos, -steis, -ron : 点過去の強変化の人称語尾



これは次の点過去の規則変化の形(11月号)とよく似ています。ひとつのバリエーションと見ればよいでしょう。

é または í, -ste, -ó, -mos, -steis, -ron: 点過去の人称語尾

語根が大きく変わっていることにも注意しましょう。

### 3.4. conocer 動詞など

conocer「知る」: conozco, conoces, conoce, conocemos, conocéis, conocen

ここで、\*zce > ce という変化を想定すると、活用語尾に e があるときは zc が c に変化します。実際に発音しても \*conozces は「コノセス」のようになるので、ほとんど「コノセス」と同じです。ところが活用語尾に o があるときは、「コノスコ」となるので z と c の発音ははっきりと区別されます。

同じことは接続法現在についても同じです。このとき活用語尾はすべて a がありますから、c の発音は conozco と同じ[k]になります。

conocer「知る」接続法・現在: conozca, conozcas, conozca, conozcamos, conozcáis, conozcan

### 3.5. 過去分詞の不規則

過去分詞の規則形は10月号で見ましたが、他に次のような不規則形があります。

escribir「書く」> escrito

abrir「開く」> abierto

volver「戻る」> vuelto

このように to が共通していることは偶然ではありません。ここで「過去分詞は基本的に to である」という原則を立てれば、 escribir + to > \*escribto > escrito によって不規則形が導かれます。

さらに、

decir「言う」+ \*to > \*decto > dicho

hacer「行う」+ \*to > \*hacto > hecho

の cho という語尾も実は同じ to に由来するのです。ここではスペイン語の特徴である ct>ch という規則が働いています。次の例を見てください。

ocho「8」:octavo「8番目の」

noche「夜」:nocturno「夜の」

### 3.6. estar 動詞

estar「...という状態である」の現在活用形を一見するとずいぶん変わった形のように見えます。規則変化(cantar「歌う」)と比べてみましょう。

estar: estoy, estás, está, estamos, estáis, están

cantar: canto, cantas, canta, cantamos, cantáis, cantan

estar の活用の特徴はアクセントが全部活用語尾にあることです。これはなぜでしょうか？答えは次のように英語と比較することで見つかります。

英語	スペイン語	意味
study	estudiar	勉強する
ski	esquí	スキー

スペイン語では語頭のs + 子音という連続にはeという母音が付加されます。estarの元の形はsto, stas, ...のように語尾変化していました。アクセントはstという子音にはつけられないので語尾に置かれたのです。dar「与える」という動詞でも語根がdという子音だけなので語尾にアクセントが置かれます。

dar「与える」:doy, das, da, damos, dais, dan

これで私たちの動詞活用の見直し作業も終着点にたどりつきました。活用形はともすると、無味乾燥で丸暗記のように思われるかもしれませんが、でもそこには一定の規則あり、スペイン語の歴史を思わせる興味深い事実が隠れています。活用練習の息抜きにこのプロセスをちょっと考えたり、またシステム全体を描いてみてはいかがでしょうか。

FIN